第一席

茶道と僕

宇部市立上宇部中学校一年（山口県）
岸下　智陽

僕が初めて抹茶を飲んだのはいつのことだったのだろうか。母に聞いてみたところによると、僕は一才のときにはもう抹茶を飲んでいたと母は言った。そうか僕はそんな小さな頃から抹茶に親しんでいたのか。と僕は思った。僕はお寺やお店、お花見などでお茶席があると喜んで必ず行っていたということも聞いた。その話を聞いて僕は本当に昔から抹茶のことが好きだったんだなと思った。小学校一年生のときに僕は「子ども伝統文化わくわく体験学校」というところで夏休みにお茶を体験した。このときに茶道っていいな、楽しいなと思った。

僕が茶道部に入ろうと思ったきっかけは、僕に一番ぴったりな部活だと思ったからだ。見学に行ってますますその気持ちは強まった。なぜならその場の雰囲気がよくて、男の先生もいたから入りやすそうで、この部活で頑張ってみようかなと思ったからだ。見学のときには女子がたくさんいて男子も三人いたのに、結局入部したのは女子二人、男子二人だった。あのたくさんの人たちはどこに入部したのだろう。こんなに楽しいのに。やっぱりお菓子目当てだったのだろうか。そう僕は思った。

僕の家では祖父と祖母は若い頃、伯父は学生時代に茶道を習っていた。だが長い間していないため、祖父と祖母と伯父はお茶もお菓子も大好きだけど、もう作法はあまり覚えていないようで、教えてもらえないので少し残念だ。母も茶道を習っているが、表千家のため、作法が違っているらしい。僕はまだ入部してからあまりたっていないので、どこがどう違うのかが分からないが、これから習って行くにつれて、少しずつ分かるようになって行くと思う。そして、忘れず覚えていくために、いつまでも続けていくようにしたい。

真行草のお辞儀、お盆にお坊さんがこられたときにあいさつができていると祖父母にほめられた。これからの日々に真行草を取り入れ、日々学んで行こうと思う。